

# 大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN



遷宮で結ぶ人の輪心の輪  
第六十二回神宮式年遷宮



平成 25 年 (2013)  
御鎮座 950 年祭

平成 24 年 (2012)

平成 24 年 新春号【第 92 号】

<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

## 主な目次

年頭所感	2 頁
新春初詣	3 頁
早春の行事	4 頁
杜の話題	6 頁
初宮詣芳名・どんぐり通信	10 頁
正月社頭風景	12 頁



新年の平穏を祈る「歳旦祭」斎行(1月1日午前8時)

平成二十四年壬辰歳の新春に当たり  
謹んでご皇室を中心とする国家の隆昌と  
氏子・崇敬者の皆様のご清福を熟禱申し上げます

宮司 録田紀彦

昨年は、我が国にとつて千年に一度と言われている大惨事、三・一一の東日本大震災を始め、9月の奈良・和歌山県下の台風による風水害の大被害等自然災害が起り、福島原発の放射性物質災害とその風評被害は、今尚鎮静化が進んでおりません。

この天災、或いは人災の大惨事にあつても、東北の人等の冷静さや秩序ある行動は、国際的に評価され、尊敬の眼で絶讃された事は、我が国にとつて誇りでもあります。又、今度の自衛隊による災害救助活動が「一旦緩急あれば義勇公に奉じる」と云う日本伝統の奉公精神の発露として再評価され、その活動が感謝されている事は、自衛隊創設以来の日の当たらない肩身の狭い存在からの脱却でもありました。

そうした中で、サッカールの女子ワールドカップ（W杯）初優勝の「なでしこジャパン」の活躍は明るいニュースで、私ども国民に爽やかな感動と、東日本大震災の被災地の方々にも勇気と励みが与えられたことと思います。

この様に昨年を振り返りますと、天変地異、内憂外患、悲喜交々の将に試練の年でありました。

中でも、天皇皇后両陛下がお示しになった「国民と苦楽を共にする」というお姿や、ビデオ・メッセージ（玉音放送）のご仁愛籠るご聖徳・ご君徳こそが、我が国を成り立たせている国柄であり、そうしてそのご存在そのものが不動の力となり、復興への大きな原動力として、国民が勇気付けられて、国民が勇気付けられて、日本の伝統の



かたちであること、多くの方々と共に感じとらせて頂きました。その天皇陛下が昨年11月の初めより、ご不例によりご入院され療

養にお努めになられていました。ご即位以来、毎年続けておられた新嘗祭へのお出ましを差し控えられることになられた由を承り、洵に恐れ多い事でございますが、陛下ご自身もご心痛如何ばかりかと拝察させて頂きました。当宮では、新嘗祭に併せて御病氣平癒祈願祭を斎行させて頂き、一日も速いご回復をご祈念申し上げます。

### 自然神道への回帰を

かの高名な哲学者梅原猛氏はご自身の50年に亘る研究の成果として、日本文化の根本思想の「草木国土悉皆成仏」をもとに「人類の哲学」を纏める着想を得られていましたが、今度の大地震が表す「人間に奴隷の如く酷使された自然（地球）の怒りと云うべき觀念が、私の哲学大系には存在していなかった」と述べられ、三・一一の大震災はご自身の哲学への厳しい批判と述懐されているのを、ある新聞紙上で読ませて頂きました。

震災は天災であるとしても、震災によって引き起こされた原発事故は人災であるが、原発を造つてエネルギー源を安定させてきた科学技術の発展は豊かで便利な生活を享受することの出来る近代文明の理念とされて来た。その根底が揺らぎ始めたので人災であるとともに「文明災」と云うべきである。亦「原子力安全神話」の崩壊は日本のみならず世界の国々、特に先進国には衝撃を与えた。そうした自然を奴隷の如く人間に従うものとしてきた、所謂デカルト哲学の神話にも大きな疑問符が投げられた。人間中心主義文明に対する天の怒りを感じざるを得なかった。

又、日本の自然は草木悉皆成仏と云う言葉で表現される様なやさしく穏やかなものに尽るものではないことを痛感した。又、古代エジプトでは太陽神と水神が信仰され、日本との共通点があったが、今、西洋文明は長い間に太陽の神を忘れてしまつて、原爆及び原発事故の経験をもとに、日本は伝統に立つて独自の文化を創造すべきである。暴虐な父とも云うべき自然の恐れとともに、慈悲に満ちた

母なる自然を尊敬する神道の精神文化を再考して、自然を恐れ、自然を敬い、自然の力を多分に享受し、自然に感謝を捧げると云う日本文化の伝統精神に従つて、国づくりをする事によって新しい人類文明のあり方を世界に示すことが出来るのではなからうか」と自然神道への回帰の道を説かれております。時機を得た素晴らしい示唆に富んだものと感動し紹介させて頂きました。

### 明年は御鎮座九五〇年祭

伊勢の神宮では、明平成25年の第六十二回神宮式年遷宮に向けて3月に立柱祭・上棟祭の日時が、天皇陛下によりご治定になり、いよいよ本格的な諸祭諸行事が始まります。

又、明平成25年度は、出雲大社や熱田神宮でも式年遷宮が行われる為の準備が進められておりますが、当大宮八幡宮も時を同じくして、その年に御鎮座九五〇年祭を斎行させて頂きますことは、洵に意義深く、不思議なご神縁を感じざるを得ません。この佳節に当たり、氏神信仰に受け継がれてきた伝統の精神を次世代に継承し、ご神威の発揚を願い報恩感謝の真心を捧げて参りたいと祈念致し、奉賛会を設立して九〇〇年以降の境内整備の集大成と位置付け記念事業を進めて参り度く存じます。時節柄、洵に厳しい時ではあります、格別の篤志を仰ぎ何卒ご奉賛の程をお願い申し上げます。

今年の新春もご神威輝く当宮のご社頭にお詣り頂き、神々のご神縁を深く結んで頂き、絆をより強くして頂き、幸せ多き年でありませう祈念致し年頭の挨拶と致します。

新年明けましておめでとうございます

# 新春初詣

御祭神 神能「翁」。小笠原流能楽師野村四郎氏により奉納される。大宮八幡宮の御祭神「翁」。



社頭では諸祭儀が斎行されます。

元旦午前零時、一番太鼓とともに神門が開かれ、多くのご参拝の皆様が大前に額づけられる中、社殿では新春を言祝ぐ神能「翁」が観世流能楽師野村四郎氏により奉納、続いて宮司奉仕により厄除開運大祈禱（一番祈禱）が斎行されます。一夜明け、午前8時よりは皇室国家の弥栄を祈念して歳旦祭を奉仕。2日午前には小笠原流一門奉仕により墓目の儀・大的式が奉納され、3日には皇位の天壤無窮を祈る元始祭が斎行されます。

東日本大震災より十カ月、加えて世界経済の危機と昨年は国内外共に多難な年でありました。が、来年の当宮御鎮座九五〇年を前に平成二十四年壬辰年は八幡大神様のご神威によりこの暗雲を吹き払い、希望の年にとの願いを込め新春

## 墓目の儀・大的式

正月2日、吉例の新春除魔神事 墓目の儀・大的式が午前10時より小笠原流宗家小笠原清忠ら一門奉仕のもと境内大前で斎行されます。

墓目とは矢先に付ける鏑の一種、墓目鏑のこと。形が墓蛙に似ており、その鋭い風切り音は魔障を退散させるといわれています。また大的式は神前で弓矢の徳威を示し、天下泰平、国家安穩を祈念する弓始めの神事。日本書紀にも一千五百年前、清寧天皇が行われたとの記載もあり、公家武家によって古くより行われてきた重儀です。この神事に因み、当宮では除魔厄除守護の神矢が授与されます。



## 平成二十四年 春の祭典と主な行事

- 1月1日 神能「翁」 厄除開運大祈禱（一番祈禱） 歳旦祭
- 1月2日 小笠原流墓目の儀・大的式
- 1月3日 元始祭
- 1月7日 昭和天皇祭遙拝
- 1月15日 古神札焼納祭（どんど焼き）
- 1月25日 初天神祭（大宮天満宮）
- 1月26日 文化財防火デー・消防演習
- 2月3日 節分祭
- 2月3日 初午祭（大宮稲荷神社）
- 2月11日 紀元祭
- 3月春分 春季皇霊祭遙拝
- 4月上旬 桜まつり
- 4月3日 神武天皇祭遙拝 本宮遙拝
- 4月29日 昭和祭・春の弓道奉納射会
- 5月3日 春の大祭 稚児行列（3日） 植樹祭（4日） 当目祭（尚武祭）（5日） 物産展「表参道」
- 5月5日 大宮八幡宮の杜 薪能
- 5月12日 御嶽権名神社例祭（御嶽権名社）
- 5月16日 裏千家献茶式
- 5月19日 朔旦祭
- 毎月1日 月次祭

## 毎月・お朔日参りを 致しましょう

毎月1日 朔旦祭（よなたでも自由にご参列出来ます。）  
毎月15日 月次祭（ご参列出来ます。）

## 謹賀新年 平成二十四年元日

- 大宮八幡宮 代表役員 宮司 鎌田 紀彦
- 責任役員 五本木 清徳 梅本 寿徳 藤田 喜友男 大塚 宏一 岩崎 太良
- 議長 黒島 四郎 青島 龍雄
- 監査 齊藤 洋一 鈴木 俊郎
- 総代 大宮地区 五本木 徳治 荒井 昭雄 関井 又樹 小松 春樹 青木 龍雄 末柄 哲男
- 方南南地区 三枝 栄治 黒塚 喜治 大塚 喜治 相枝 貞雄 内山 誠郎
- 方南北地区 岩田 圭文 廣田 圭文 齊藤 美太郎 鈴木 修三 細野 三章
- 和田東地区 梅田 清一 松野 康夫 佐藤 晃一 齊藤 洋一 玉川 恭男
- 和田西地区 飯高 朝資 浅川 静男 藤川 純一 森川 俊郎 葉梨 俊郎
- 松ノ木地区 松島 一郎 松上 一郎 瀨田 正一 川橋 文治 本橋 宏章 瀨松 武章
- 相談役 高橋 住雄 田木 城夫
- 兼務神社総代会長 堀ノ内熊野神社 成宗 達雄 成宗 白神 岩田 和保 尾崎 熊野 安藤 雄次
- 大宮八幡宮敬神婦人会 (りんどう会) 副会長 鎌田 芳枝 会長 高橋 美延 堀友 美延

# 大宮八幡宮 早春の行事

## 古札焼納祭(どんど焼き) 斎行

一年の間お護り頂いた御神札や御守りなどに感謝しお焚き上げをする神事、古神矢・古神札焼納祭(どんど焼き)が小正月の1月15日に斎行されます。この日午前10時から月次祭並焼納奉告祭を奉仕の後、午前11時半より社殿前斎場にてどんど焼きの神事が執り行われます。先ず火鑽神事が行われ、古式に則り火鑽具により熾された浄火が、年末年始に納められた古神矢・古神札・注連縄の山に点火され、神職参列員

## どんど焼きにご協力をお願い

ご神札等をお納め頂く際に全て点検・選別させて頂き、**神社関係以外のもの・燃えないもの・有毒物質の発生の恐れのあるもの(プラスチック製品等)・包装紙は、その場でお持ち帰り頂いております。**何卒、ご協力の程をお願い致します。◆御守り・古神矢・古神札類(他の神社・寺院のもの)及び正月飾り(注連縄など)のみお預かり致します。◆人形類は、別途にご社殿におきまして人形感謝祭を斎行してからお納め頂きますので、直接祈禱受付所へお申し出下さい。(※但しぬいぐるみはお預かり出来ません)

が大祓詞を奏上、一年間の守護と除災を感謝します。また当宮敬神婦人会(りんどう会)奉仕により境内で「厄除ぜんざい」が振る舞われます。



## 初天神祭を奉仕

1月25日はその年初めての天神様の御縁日。当宮境内社の大宮天満宮ではこの日、午前10時より**初天神祭**を斎行。学問の神と親しまれて受験生等に崇敬の篤いご祭神菅原道真公に学業成就・芸上達を祈念致します。また、この天神祭に合わせ



て、梅の香りで心癒やす「梅ヶ香御守」も、社頭にて授与しております。

## 文化財防火デー 消防演習

文化財防火デーは戦後の法隆寺金堂壁画の消失の教訓から1月26日に設けられた日です。昨年は特に大震災や台風による風

水害の多い年でありました。備えあれば憂いなしの格言の通り、いざというときに行動が起こせる様に当宮では毎年この日に消防演習を行っており、当日は大宮八幡宮自衛消防隊と杉並消防署並びに杉並消防団第二分団のご協力により行われ、避難誘導・社殿への一斉放水などが実施されます。演習終了後は消防署員の指導により、参加された地元町会の方々と職員等を対象に水消火器を使った初期消火訓練が行われます。



## 2月3日 節分祭と初午祭斎行

今年の初午の日は節分の2月3日、当宮では午前10時より**節分祭**を斎行、また境内大宮稲荷神社で午後1時より**初午祭**を奉仕致します。節分とは

本来、季節



## 新春厄除け祈禱のご案内

厄年(やくどし)は、古來人生の節目として特に気をつけなければならぬとされてきた年回りです。厄除けのお祓いをお受けになり、清々しい一年に致しますよう。

## 平成二十四年厄年表(数え年)

		前 厄	本 厄	後 厄
男 性	昭和64年生(24歳)	昭和63年生(25歳)	昭和62年生(26歳)	
	平成元年生(41歳)	昭和46年生(42歳)	昭和45年生(43歳)	
	昭和28年生(60歳)	昭和27年生(61歳)	昭和26年生(62歳)	
女 性	平成7年生(18歳)	平成6年生(19歳)	平成5年生(20歳)	
	昭和56年生(32歳)	昭和55年生(33歳)	昭和54年生(34歳)	
	昭和52年生(36歳)	昭和51年生(37歳)	昭和50年生(38歳)	
	昭和28年生(60歳)	昭和27年生(61歳)	昭和26年生(62歳)	

※本厄の前年は前厄、後年は後厄にあたります。厄年に限らず、除災招福の厄除祈願を受けることが出来ます。

の変わり目である立春・立夏・立秋・立冬の前日を指しますが、中でも立春前日は年の始めとして重視され、この日だけが節分といわれ、悪疫邪気を祓う追儺や豆まきが行われてきました。当宮では桃の弓と葦の矢にて「天・地・人」に潜む魔を射る追儺神事と、

祭典後社殿前にて鬼に扮した幼稚園児が参加する豆撒き神事が執り行われます。

また初午祭は2月最初の午の日の神事。稲荷大神が和銅4年(711年)の2月11日に京都・伏見の稲荷山に降臨されましたが、この日が2月初午だった事から広く稲荷大神の祭日とされます。大宮稲荷神社ではこの日、百数十本の朱色の初午幟りが翻るなか初午祭を齋行、五穀豊穡と家内安全・商売繁盛などを祈念します。



### はつうま 初午のぼり奉納募集

お稲荷さまは、商売繁盛・家内安全のご利益のある神様です。本年も、左記により商売繁盛・家内安全等を祈願の「朱色のぼり」を大宮稲荷神社のご社頭にご奉納賜りますようお願い申し上げます。  
一、朱色のぼり一口三、〇〇〇円  
(出来れば対二口以上でお願い致します)のぼりには、御氏名(又は会社名)を入れてさせて頂きます。



### 建国記念の日 紀元祭を齋行

2月11日はもと紀元節の建国記念の日。この日、初代の神武天皇様が大和橿原の宮に即位されてより今年は一六七二年になります。

当宮では11日午前10時よりご社殿にて紀元祭を齋行。神武肇国のその上を偲び、国運の隆昌と世界平和を祈念。次いで特設の齋場にて橿原神宮を遥拝、ご参列の皆様と共に「紀元節」の歌を斉唱致します。



### 毎月お朔日参りに月参り御幣守護

当宮では古くより朔旦(二日)、十五日に月参りをされる参拝者の方々が多く、こうした方々に年間を通じて八幡大神様のご神威をお受け頂こうと、毎月の朔旦祭に併せてお朔日参り「月参り御幣守護」の祈禱を奉仕しております。

月毎にお申し込みの場合初穂料三、〇〇〇円、年間一括でお申し込みの際は初穂料三〇、〇〇〇円にて齋行させて頂いております。



### 厄除開運大祈禱(二番祈禱)

元旦の午前零時の神能「翁」奉納に続き、その年最初の祈願祭である「厄除開運大祈禱(二番祈禱)」が宮司奉仕により執り行われます。

この祈禱にご参列希望の方は、新春初祈禱の予約申込みを12月20日までに済ませの上、大晦日12月31日午後11時20分から40分までに神門横祈禱受付で受付票をご提示下さい。

一番祈禱をお受けの方にのみ、特別絵馬と招福熊手を授与致します。  
(※但し、先着50組様までとさせて頂きます。)



### 新春献燈提灯奉納のご案内

新春の期間中多くの参拝者をお迎えするに当り、皆様方のお名前を入れた献燈提灯を掲出させて頂き、ご社頭を尚一層賑々しくお飾りさせて頂き度く存じおります。つきましては、左記によりご献燈を賜りたく宜しくお願ひ申し上げます。

掲出期間 1月1日から2月3日まで  
初穂料 一燈一〇、〇〇〇円  
申込締切 12月20日(郵送は19日必着)

### 新春初祈禱 企業団体祈禱も

新春に当り氏子崇敬者の皆様の新しい年のご繁栄をお祈りする新春初祈禱を連日ご奉仕させて頂きます。

又、企業・団体様の仕事始めに合わせ、更なるご発展を祈る祈願祭もご奉仕しております。ご祈願の際は代表様・従業員の皆様お揃いでご参拝頂けます。この新春にお揃いでご祈願を受けられまして、清々しい気持ちで一年の仕事始めとされては如何でしょうか。

新春祈禱・企業団体祈禱をご希望の方は、社頭の申込書に必要事項をご記入の上、ご予約をお願い致します。又、申込書をHPからでもダウンロード出来ます。  
※御神札には、祈禱名と代表者名を浄書させて頂きます。  
※詳細は社務所へお尋ね下さい。



# 杜の話題

## 東日本大震災復興祈願 大宮八幡祭り(秋の大祭) 斎行

恒例の大宮八幡祭り(秋の大祭)



園児神輿の神輿振り(例祭)

が、平成25年の当宮御鎮座九五〇年祭の前に八幡大神様の愈々のご神徳の発揚、また東日本大震災の鎮災復興を祈念して9月15日より19日の間齋行

されました。15日には献幣使として平岩東京都神社庁長の参向のもと例祭を齋行、神社本庁より幣帛が献げられました。16日午前、神輿神霊入祭を齋行。氏子6地区の神輿29基に大神様の別御霊をご奉遷。



17日の宵宮祭に続き18日午前10時よりは氏子奉幣祭を齋行、宮司祝詞奏上のおと副奉幣使(副祭礼委員長)の梅田清役員が氏子6地区より

## 大震災鎮災復興祈願祭を

東日本大震災鎮災復興祭が9月1日午前、朔旦祭に併せ齋行されました。当宮では震災発生後の3月20日、復興祈願祭を齋行、その後春秋大祭や朔旦・月次祭、毎朝の日供祭で被災地域の復興、余震放射線災害の沈静化などを祈念。また罹災者や罹災神社への義捐金募金活動等を行ってまいりましたが、此度の祭典は防災の日に合わせて齋行されたもの。多くのご

幣を大前に奉献、奉幣使(祭礼委員長)の五本木徳治役員が氏子祈願詞を奏上、氏子地域の繁栄とご加護を祈念しました。

この日午後6時よりは神輿合同宮入り。第26回を迎えた今年は氏子6地区より過去最高の9基の神輿が表参道より神門内に繰り込み、威勢のいい神輿振りに境内は興奮のつぼと化しました。

## 第11回十五夜の神遊び

武蔵野の秋の風物詩「十五夜の神遊び」が去る10月9日(十三夜)夕刻齋行され、月の音舞台の奉納演奏では語り「杜子春」などが奉納されました。この神遊びとは神祭りのこと。第11回を迎えた今回の神遊びは東日本大震災の鎮災と復興を願って執り行われました。

参列の皆様と俱に一日でも早い復興が叶うことを願いました。

また兼務神社の尾崎熊野神社は9月4日、成宗白山神社は9月11日、堀ノ内熊野神社は9月18日にそれぞれ例大祭に併せ鎮災復興祈願祭を齋行しました。



午後6時参列者らにより竹灯に献灯されたあと、社殿にて神祭りを齋行。神前に月見団子と栗がお供えされ、神楽殿へと舞台を

移して神楽舞・雅楽の奉奏に続き月の音舞台(杉並区文化協会後援)が奉納されました。語り・稲垣隆史、横笛・西川浩平、キーボード・奈良英子等による音楽劇「杜子春」は、唐の洛陽の若者が仙人に出会ったことから始まる芥川龍之介の名作で、十三夜の名月に照らされ、虫の音すなく鎮守の杜に幽玄の音世界を現出致しました。

安産の願いで絵馬掛けが一杯に



戌の日詣りは  
子育八幡さまの当宮で  
安産祈願のご祈禱を！  
※戌の日以外でも随時受けおます  
ご祈願の方には安産腹帯(岩田帯)と兵に、へその緒(結ばれたお母様とお子様健康にご出産の時を迎えられますように)の願いが込められた「母子緒守」と「安産祈願絵馬」を特別に授与しております。

## 戌の日早見表

(平成24年1月～5月)

5月	4月	3月	2月	1月
1日(火)	7日(土)	2日(金)	7日(火)	2日(月)
13日(日)	19日(木)	14日(水)	19日(日)	14日(土)
25日(金)		26日(月)		26日(木)

は大安の日です

### 和田小がルーツを辿り

重陽節句の9月9日午前、杉並区立和田小学校の3年生50名が参拝、境内説明の後、同日より開催の菊被綿飾りの展示を見学しました。

和田小が大宮小学校の分教場から独立開校して80周年を迎えますが、大宮小がそもそも当宮から始まったことから、そのルーツを辿ろうと今回の訪問となりました。



### タウンウォッチングin永福町

グループタウンウォッチング(前田波留代表)の9月度「マンズリーツアー」の一環として計12日間、のべ360名の会員の方が当宮を散策されました。当グループは、東京を中心とした会員制の街歩きのみ。

今回は、永福町駅から出発し周辺を巡り、当宮では由緒等の説明の後、境内の散策を楽しみました。



菊の被綿飾りを見学

### 敬神婦人大会東京大会参加

全国敬神婦人連合会(北白川慶子会長)では去る9月、第六十二回全国敬神婦人大会を東京都港区のホテルで開催。りんどう会より役員らが参加し、同会鎌田会長が約千二百人の会員を前に、大会宣言を朗読。「各々が今できること、敬神婦人としての使命と役割について、今一度認識すると共に、鎮守の森から、笑顔で暮らせる地域社会づくりに向けて、女性ならではの活動をさらに進めてゆき、日本の再生のために微力を尽くす」旨が満場一致で採択されました。



りんどう会研修旅行足利へ

### りんどう会研修旅行足利へ

去る11月8日、りんどう会の懇親旅行に鎌田会長を始め33名が参加しました。5回目を数える今回は、栃木・足利の旅。

当宮を出発した一行は、先ず足利義兼公の生き入定の地である「樺崎八幡宮」へ。ついで「伊勢神社」に参拝。提箸宮司様をはじめ、皆様のご接待を受けました。午後は足利公園の緑にかこまれた料亭にて、季節の会席料理を堪能後、日本最古の学

### りんどう会だより

当宮敬神婦人会(りんどう会)では9月12日、秋の大祭を前に御垣内清掃奉仕が行われました。参加した19名の会員は、お清めの修祓を受けたのち、御本殿周りの禁足地に参入。落ち葉掃きなどの清掃奉仕を致しました。又、1月15日には厄除げんざい奉仕、2月には新年会が開催されます。当会では随時会員を募集しておりますので、ご入会希望の方はお気軽に事務局(社務所)へお申し出下さい。

### 第33回杉並大宮菊花展

秋の恒例行事、第33回杉並大宮菊花展が10月21日より新嘗祭の11月23日まで、杉並大宮菊の会(会長五本木徳治役員)主催・杉並区後援により開催されました。

猛夏の為か、皆様開花にご苦労されたご様子でしたが250鉢近い出品を頂き、11月の七五三のシーズンには多くの家族連れが、753文字菊や色取り取りの菊花の前で記念の写真撮影を行っておりました。

11月7日には審査会が行われ宮司賞以下が選定。去る12月12日午後菊花展表彰式が賑々しく執り行われました。

### 第33回杉並大宮菊花展受賞者

- 宮司賞 本橋利夫氏(総合花壇)
- 杉並区長賞 五本木秀子氏(血光金星)
- 会長賞 伊藤操氏(多摩の景勝)
- 大宮八幡宮責任役員賞 倉本栄子氏(国華聖香)
- 京王電鉄賞 柳田晃一氏(国華越山)
- サミット賞 井上良介氏(国華太上)
- サミット賞 中村幸之輔氏(泉郷情熱)
- みどりの会会長賞 木下武雄氏(精興右近)
- 審査委員長賞 関富雄氏(国華金山)
- 藤枝賞 稲村実氏(泉郷玉椿)
- 末柄賞 青木弘次氏(新清見の翁)
- 八幡通商栄誉賞 五本木徳治氏(血光金星)
- 金賞 足立武夫氏(野知の輝き)
- 渡辺忠雄氏(廓飾り六忠)
- 加藤英明氏(国華金山)
- 山田恭市氏(彩胡優美)
- 三上忠彦氏(国華強大)
- 佐久間亨氏(国華聖香)
- 倉本晴雄氏(国華越山)
- 岩本芳子氏(白雪姫)

新人賞

### 幼稚園自転車交通安全講習

大宮幼稚園の自転車交通安全講習会が去る11月7日に行われました。講習会には、年長園児・保護者ら150名近くが参加し、特に此度の改正道路交通法で変更となった自転車の乗り方などが、高井戸警察署のお巡りさんからビデオや腹話術なども交えて分かりやすく説明されました。



平成25年  
御鎮座九五〇年記念事業のお願い

緑豊かな都心の杜に御鎮まりになり、氏子崇敬者の心の故郷であります当宮は、来る平成25年御鎮座九五〇年を迎えます。

遠い祖先の時代より氏子の皆様方が、その神恩に感謝しつつ赤誠を尽くして営々と努力され、鎮守の杜に相応しく境内を整備し今に残して下さっている様に、私共も先人に習い、その尊い意思を子々孫々次代へと引き継いでゆかねばならないと、この秋に当たり思いを新たに致すところであります。

つきましては奉賛会を設立して、御鎮座九〇〇年以降の境内整備の集大成と位置付け、御社殿周りのバリアフリー化を中心に、記念の諸事業を進めて参りたく存じます。

御鎮座九五〇年奉祝祭

平成25年5月5日(祝・日)

記念整備事業計画

- 一、御社殿向拝バリアフリー(北側)整備  
木造屋根架けスロープ工事一式
- 二、御社殿向拝階段手摺り(南北)増設  
バリアフリー整備
- 三、表参道石階段手摺り(之鳥居・二之鳥居)  
バリアフリー整備
- 四、高欄風製アルミ手摺り設置工事(之鳥居・二之鳥居)
- 五、御社殿内・外拝殿・神門の御帳門帳新調
- 六、南参道鳥居社号扁額の新調
- 七、弓道場振武殿整備工事
- 八、神社施設等補修工事
- 九、結婚式場清涼殿バリアフリー整備  
エレベーター設置工事
- 一〇、トイレ改修等バリアフリー付帯工事
- 一一、結婚式場清涼殿「ロビー」「亀の囲い」改修工事
- 一二、祭典費・記念品費・事務費等諸経費

ご奉賛金の勧募

一口(壹万円)五口以上をお願い致します  
尚、五口以上ご奉賛の方々には記念の石碑にお名前を刻し永久に保存させて頂きます。

峰睦会世話人一同様

ご奉賛ご奉納

一金 五万円

- 岩田文雄 広田圭治 長森佑一
- 岩田正智 小宮山幸治 小原沢良夫
- 安達章久

埼玉・大里総代会参拝

埼玉県大里郡市総代会(小林熊二会長)の神社総代の皆さんが去る9月11日、当宮に参拝されました。同会は熊谷、深谷、寄居の郡市で構成される総代会。ご一行120名は同日午前来宮、昇殿参拝後、宮司の説明を受け、境内を散策されました。

献血功労者受賞

平成23年度の献血功労者に当宮が選ばれ、去る10月8日、都庁大会議場で贈呈式が行われ、都知事より感謝状が贈呈されました。



今回の受賞は多年にわたり献血推進事業の発展に尽力、保健衛生の向上に寄与した事から、当宮では毎年正月3日に境内にて赤十字社による献血運動が実施されています。

明治神宮崇敬会  
各支部婦人部参拝

明治神宮崇敬会各支部婦人部の皆様、相次いで当宮に参拝されました。

埼玉県の与野支部婦人部(井原祺子婦人部長)ご一行80名は11月8日、正式参拝のあと清涼殿にて総会を開催。11月15日は練馬支部婦人部(小松崎節子婦人部長)、11月24日は葛飾支部婦人部(尾池和江婦人部長)、11月29日は板橋支部婦人部(手島地恵子婦人部長)、12月13日は目黒支部婦人部(栗原歌子婦人部長)ご一行が参拝。各々参拝に続き由緒・境内等の説明を受け、出迎えたりなどう会役員らと親睦を深めました。

献血活動にご協力を

社会奉仕活動の一環として毎年正月3日に、南参道にて日本赤十字社による献血が呼びかけられております。病气やけが等いつ起こるか判りません。輸血を必要としている患者さんの尊い生命を救う為、健康な方の献血にご協力をお願いしています。



神符奉戴式斎行

平成24年の迎春を前に氏子・崇敬者や全国の立正佼成会会員の方々に御祈りする御神札の奉戴式が11月4日午前、斎行されました。

奉戴式では大宮大麻・大宮三宝荒神などの御神札に御神霊をお遷しし、また神宮大麻と併せて頒布始めの旨を大神様に奉告、氏子崇敬者を代表して瀬沼・藤枝責任役員、青木・





### 新嘗祭に併せ

### 陛下の御病氣平癒祈願祭

新穀を大神様に  
お供えし一年の収  
穫を感謝する新嘗  
祭が勤労感謝の日  
の11月23日執り行  
われ、併せて天皇  
陛下御病氣平癒祈  
願祭が奉仕されま  
した。

新嘗祭は責任役  
員総代りんどう会  
役員他130名の参列  
のもと、23日午前9  
時より宮司以下祭員奉仕により大  
祭式にて齋行。園内の稲田で当宮幼  
稚園園児らがお田植えや稲刈りを  
して丹精込めて育てた初穂や、JA  
中野杉並支部など氏子崇敬者の篤  
志家の方々から献納された穀物ま  
た野菜果物などが庭積神饌として  
大前にお供えされました。



新嘗祭に併せ  
て天皇陛下御病  
氣平癒祈願祭を  
齋行、11月初旬  
入院された陛下  
の御病の一日も  
早いご平癒をご  
祈念申し上げます。  
また東日本大震  
災の鎮災と復興  
をも祈願致しまし  
ました。



葉梨総代及  
び神札頒布  
責任者の中山  
然子様(立正  
佼成会 杉並  
教会・りんど  
う会役員)に  
御神札が授与  
されました。



ご家庭や会社事業所では新しい  
お札をお祀りして清々しい気持ち  
で新年をお迎え致しますよう。

### 恵俊彰さんご参拝

TBSの『ひるおび!』はじめ  
司会者、俳優、ニュースキャスター  
として幅広くメディアで活躍され  
ている恵俊彰さんご一家が11月20  
日、当宮に参拝されました。

此度の参拝はご長女の七五三詣  
でお越しになられたもので、ご祈  
願のあと清涼殿で饗膳をおとり  
になりました。ご一家はご長女のお  
宮参りやご次男の七五三詣でもご  
来宮頂いております。



遠宮で結ぶ人の輪心の輪  
第六十二回神宮式年遷宮

第六十二回神宮式年遷宮に  
真心からのご奉賛を致しますよう

### 大宮八幡宮氏子青年会結成

氏子の若人の力を鎮守の森に結集  
しよう―氏子内よりかねてから強い  
要望が出されていた氏子青年会の結  
成について、当宮では今年度の発足を  
目標に結成準備委員会を設置、各地  
区町会や睦会の皆様にご協議を頂い  
てまいりましたが、去る11月5日開  
催の準備委において2月26日結成を  
目途に諸準備を進める旨、決定され  
ました。発足後は皆様方の奮っての  
ご入会をお願い申し上げます。

### 神輿若睦表参道注連縄張り

秋の大祭を控えた9月10日、早  
朝より氏子町会の神輿若睦の皆様  
により、当宮表参道両側の注連縄  
張り奉仕が行わ  
れました。

これは、神輿  
合同宮入の通り  
道である八幡前  
商業会通りを飾  
り付けて、秋祭  
りの雰囲気を高  
めようと有志に



### 新春初詣旅行のご案内

日時・1月27日(金)～29日(日)

新春吉例の伊勢神宮初詣旅行。  
第一日目は、先ず伊勢神宮「外宮」  
にて御垣内特別参拝。次いで「内宮」  
にて太々神楽を奉納し御垣内特別参  
拝を致し、新しい年の更なる繁栄と  
各位のご多幸を祈念致します。

第一日目は、えびす様の繪本社「西宮  
神社」を参拝後、世界最長の吊り橋  
明石海峡大橋を渡り淡路島へ。

最終日は淡路国一の宮「伊弉諾  
神宮」とお稲荷さんの繪本宮  
「伏見稲荷神社」を正式参拝し、帰  
路につきます。

皆様お誘い合わせ頂き、多くの方のご  
参加を心よりお待ちしております。  
★詳細は、当宮社務所(03-3311-0005)まで  
お尋ね下さい。(平成24年1月5日メ切り)

て行われたもの。左右二手に分かれ、  
縄を張る者、紙垂をつける者と分  
担し、手早く電柱や街灯へと注連  
縄を結びつけておりました。  
又3回目となります年末の門松作  
りも、12月25日に行われ、例年に勝  
る立派な門松をご社頭に飾り付け、  
新春を迎える準備が整えられます。



# 初宮詣芳名

(平成23年7月24日〜平成23年11月22日)

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

- 堂国諒 阿部日絢 瀬野寛太 千葉明莉
- 荒井晴 大塚華乃 左近允健介 中山海斗
- 高井心結 三井亮 齊藤孔旺 齋藤朱花理
- 高橋仙太郎 赤中連 尾芦 前田莉彩
- 井上心結 谷中道 口へス咲菜 神戸咲乃
- 高山隼司 中山翔太 田中晴也 佐藤夏月
- 清水瑠桜 中山裕太 高道心結 牧野鼓巳
- 後藤詩奈 岩村有真 三枝拓実 赤星緑
- 小野清志郎 隅田朱音 齊藤和泰 楠佳子
- 西林勇人 井勝克和 廣瀬緑 笹井凜生
- 服部由奈 山本慧太郎 高橋怜 谷田員健人
- 谷間竜太 宮澤颯希 石田聡美 高橋隼
- 中東美咲 小幡勇介 北村七海 宮下瑞久
- 鎗田一輝 西勝桜花 高島虎の介 岡咲衣
- 樋川拓夢 権瓶力毅 大塚菜々 佐藤悠介
- 石原凌太 香坂璃都 田口澤 石川ひな
- 石上こほ 濱本拓輝 野村怜菜 太田咲良
- 三島壮生 星澤沙来 海辺純 木原菜
- 山口瑛希子 平澤仁 西田昊生 江渡遼太郎
- 大越海碧 金子実未 前田拓澄 今宮未瑛
- 内藤蓮斗 樽井大周 島村楓卯 有可愛麻
- 生田嶋鞠斗 岩槻和真 坂上茉優 榎剛太郎
- 具志堅聖菜 長島樺子 浅賀萌有 松田望愛
- 豊嶋祐哉 古澤悠生 森風花 上村このえ
- 東田とよか 深田悠裕 石坂千陽 酒井陽叶
- 野島那海 宇田川希加 佐藤日美 草野安乃
- ヱイム 小林咲陽 猪股神哉 山野井花
- 芽惟 吉岡ひまり 佐藤也未 清水美穂
- 真崎絢寧 竹中健太 赤坂葵 酒巻英太
- 久保陽花 井口美咲 赤坂葵 内村颯汰
- 若見希美 阪下清恋 廣瀬七海 金子茉央
- 石川愛菜 宮田怜奈 村越佑輝 保坂逢月
- 千田晴都 千田遙音 野口優大 森脇玲奈
- 坂巻穂成 宇佐美香 池田和真 小森へり
- 塚本惇平 石井祐太郎 坪根大 加藤るこ
- 榊原由乃 三宮祥瑛 椿みなみ 善財愛結
- 正田諒成 大高琉斗 藤原幸生 石澤紬
- 宇木悠人 千葉丈空 後藤琉花 安積悠人

- 坂元結海 大澤ヤマト 植田結依菜 太田夏帆
- 渡邊一磨 田口詩織 高玲奈 泉葵人
- 松浦咲子 土屋良祐 吉田夕梨花 川嶋那乃
- 上原康佑 後藤花佳 真鍋輝也 川瀬麻由
- 向井優太 安倍嘉乃 松本康太郎 廣松宗旺
- 櫻嶋斗和 松本ありす 和田青潤 平野米彩
- 櫻井七海 福田歩叶 リナレス 植松夏人
- 佐藤心瑚 青木蓮 長瀬愛良 石綿勇人
- 山本杏 福田幸希 クラッセ 脇彩紗
- 麦林流亮 山田茉香 石井杏 美寿見空
- 小野凜子 廣井孝恭 長谷川杏 高原拓
- 安藤凜子 小坂麗久 内田航大朗 高橋康太
- 佐野光祐 岸栄汰 山口沙斐 野口夏彬
- 山口哲平 小山実夢 浅井千明 工藤碧人
- 池田聡太 尾崎悠人 花井心菜 松尾璃空
- 島内佑花 鎮野千里 小椋敢太 中村由希都
- 鎮野千恵 柏田奈穂 西村望留 梅木菜帆
- 安田妃奈 上野山昊 加藤大雅 岩藤希
- 岡田拓真 宮原功貴 沖本千種 小岩原啓人
- 永井夏海 豊田運坂斗 橋田日々登 江頭瑞恩
- 酒井真菜 浅川泰輝 小此木永登 川久保真樹
- 池田杏 野田晴孝 風戸孝太 岩瀬永璃
- 谷田志有 柳田彦仁 山上祐典 宇田川太一
- 猪狩心和 田中彩楓 金子蒼生 大原奈々
- 西井琉斗 川邊嘉利 高野恵佑 浅井颯良
- 佐藤寛太 田口夏己 福井寛太 加藤夏恋
- 江上凜 木我契太 小原紗紗子 吉田羽希
- 高橋柚衣 三枝龍世 岡千紬 森下航雅
- 佐々木功 安藤悠晴 園田泰悟 小林新
- 向出空渡 関健叶 兼綱優成 角征哉
- 藤村空優 森田二麗 宮方蓮花 倉科青生 伊藤由翔
- 寺島世夏 津崎崎花歩 金本律太 能津美空
- 磯本紗衣 荒木優一 薄合こまつ 三神藍
- 岩田夏音 有田晃 金澤佳央 白木香緒
- 菅原千聡 久保田光紀 久保田英理 須田葉晴
- 京田彩希 平林愛那 佐野旬亮 佐久間紬
- 神山颯汰 齋藤剛志 岩田悠志 田中佑宜
- 村井陸 宇野里愛奈 武田知真 山中明紗
- 緒方佑衣 佐々木細夏 矢田理乃 松井煌生
- 小池龍之介 山口凜空 松本佳菜子 富塚千陽
- 河内心海 阿翔太 綾部みら 川津海斗
- 西島由博 大江研人 石井明星 加藤勇磨
- 小松孝太郎 伊藤壮哉 土方志作 篠原崇志

## とんぐり通信

### 大宮幼稚園 園児作品展



神社の銀杏の木もすっかり黄色に染まり、秋が深まりゆく中、作品展が11月19日に開催されました。あいの雨でしたが、お父様やお母様、お家の方々が作品一つ一つをじっくりと見ながら子ども達の頑張りを認め下さったり、作品が出来るまでの過程を聞いて下さっている姿を見て私も心温かくなりました。きつこの励ましが子ども達の次へのステップの力となります。

展で年中組は、『等身大の自分』に挑戦しました。大きな五色の模造紙から、一色選びその上にそれぞれ自分の好きなポーズを決めて、模造紙からはみ出さないように動かないように寝ます。どんなポーズにしようかな?と家で真剣に考えていたように楽しいポーズがいっぱいあります。寝ている子ども達の周りを先生が鉛筆でなぞりながら、途中でくすぐったくて笑ったり、くにくにくと動く子ども達に思わず私たちも笑ってしまいました。

その後、絵の具で自由に塗るので、なるべくはみ出さないように、輪郭をまず描き、それから絵の具で塗る事を話すとさすが年中さん!コッを掴み、のびのびと描き始めました。等身大なのでかなり絵の具で塗る部分がたくさんありますが、最後までじっくりと取り組んでいました。

最後にクレパスや色画用紙で顔や洋服の模様、周りの絵など大きな紙と向き合い手を伸ばして楽しんで仕上げていました。布団で寝ている所、バンザイしている所、バトンを持つて走っている所など一つ一つしぐさや顔がとてもよく似ていて作品展当日の保育室には表情豊かな等身大の子ども達がたくさんのお客様を笑顔で迎えていました。

これからも子ども達の豊かな発想を大切に、いろいろな素材を使い、楽しい技法と一緒に学んでいきたいと思えます。 主任 丸山尚子

「舌切り雀」切り画奉納

大宮幼稚園にて切り画家風祭竜二氏による「切り画教室」が11月8日・9日・10日の三日間に亘り行われ、第12回目の修了を記念して、童話舌切り雀を題材にした切り画3点が奉納されました。

大前での奉告祭の後、宮司へと手渡され、現在は清涼殿にて展示されております。







# 平成24壬辰年 迎春

新年にはご祈祷(ご祈願)をお受けになり、清々しい一年に致しましょう

平成二十四壬辰年 元旦零時 一番祈祷・厄除開運大祈祷祭斎行



新年の訪れを知らせる、宮司の初太鼓



野村四郎氏による新春を言祝ぐ神能「翁」



一番祈祷参列者に鈴振り神事

清々しい初日の出を迎え、多くの参拝者がお参りになる、大宮八幡宮



元旦(午前8時)、歳旦祭斎行



立正俊成会 庭野会長らご参拝



授与所にて新年の御神札をお受けの参拝者



若水(その年最初の御神水)を汲む



運氣が伸びるよう、御神木横の神籤掛けに



陸続と続く初詣者で溢れる表参道

**大 宮 第92号**  
**平成24年 新春号**  
 平成24年1月1日発行  
**大宮八幡宮社務所**  
 〒168-8570  
 東京都杉並区大宮2-3-1  
 電話 (3311)0105 FAX(3318)6100  
 Mail : info@ohmiya-hachimangu.or.jp



新春を待つ、たつの干支土鈴たち